



# 陣内俊 Prayer Letter

Designed by CORKSCREW DESIGN WORKS /2008/All Rights Reserved

2013年2月-3月号  
Vol.30

## 支援者の皆様へ

### 支援者の皆様へ

支援者の皆様、こんにちは。いつもお祈りとご支援を心より感謝いたします。私が以前の市役所での仕事を辞めて、今の形態で働くようになったのは2008年4月のことでした。つまり、まる5年間、支える会を通して皆様に祈り支えていただいたこととなります。2007年の秋に「来年の4月までにセルフサポート（支援者を募って自分の生活費負担を賄う）体制を整えるように」と言われたとき、私は原因不明の高熱を出し寝込みました。今では過去の思い出ですが、「給料のない人生」というのは私にとって未知と恐怖の世界でしたし、私の周囲の多くの人々にとってもまた同様でした。「そんな無謀なことをするのは考え直した方が良い」とアドバイスをくれた先輩や知人もいましたし、今でも定期的に似たような意味のことを言ってくれる人がいます。このような働き方に馴染みのない日本社会において、周囲と相いれない「異物」となっているような感覚を時に覚え、そのような視線を背中に感じることもあります。

私の歩みは、5年経った今でも確信に満ちているとは到底言えません。水の上を歩いたペテロのような気持ちで、半信半疑、51%の信仰と49%の疑いで、それでも「**神の国とその義を第一にしなさい。そうすればそれに加えて必要なすべてが与えられる。**」という約束にすがりながら私は歩んできました。今でもどうして自分が野垂れ死にせずに生きているのか、時々不思議に思います。ただ驚き主をたたえることしかできません。



1月・韓国においてDNA代表ボブ・モフィット氏と

私の歩みを支えてくれたのは神様の恵みに加えて、皆様の祈りとご支援のおかげであることは言うまでもありません。期待にお応え出来たかどうかは自信がありません。また皆様の祈りや尊い献金に見合うようなことが出来たかと聞かれると、なおのこと自信がありません。しかし、不完全ながら神様の呼ぶ声にお応えしようとしてきました。また、神様が下さった恵みを、「お返しすることの出来ない大きな負債」と考え、恩返ししようとしてきました。2007年に当時の職場の上司に「(30歳の今ではなく)60歳で定年してから同じことをするのは駄目なのか？」と訊かれ

ました。私は祈り考え、やはり駄目だと思いました。「人生の最も良い部分」を差し出して神様にお仕えしたいと願ったからです。これが私の「我がまま」でした。このレターを読んでくださっている皆様は私のその「我がまま」に何らかの形で付き合ってくださいました。本当に感謝しています。

「もしあのとき市役所を辞めていなかったら」できなかった多くのことがあります。これはすべて皆様のお祈りとご支援、そして神の助けによって可能にされたことです。心よりありがとうございます。

■アジアやアフリカの現場で神の国拡大のために奮闘している友人たちとパートナーシップ（相互学習の協力関係）を構築し、FVI を通して精神的にも経済的にも励ますことが出来ている。まだ小さくはあるが、日本と海外の架け橋が少しずつ構築されつつある。

■FVI「声なき者の友の輪」という団体の創立に関わった。この団体を通して 21 世紀の海外協力の在り方と宣教の在り方について実践と啓発をしていく夢が与えられている。

■数多くの学校、教会などの講演活動やワークショップを通して、人々とともに「仕える生き方」について分かち合い励ますことが出来た。（累計人数は 1 万名を超える。）

■ICBC（蒲郡市）から派遣された国内外への「宣教師」、練馬グレースチャペルの協力牧師として、これらの教会が地域社会の必要に仕える全人宣教を実施するサポートをさせていただく。

■東京を始め、全国の多くの都市で仲間たちにより聞き屋ボランティアが始まった。

■東日本大震災以降、FVI を通して継続的に福島県と関わりを持たせていただいている。

■神に仕えたいという同じ想いと情熱をもって私を支えてくれる伴侶と結婚し共に歩んでいる。

弱気になるとき、「もう辞めにしようか。」と今でも思いますが、やはりまだ歩み続けようと、決意を新たにされます。それは人の期待に応えるためにでも、もはや（多分）自分のわがままでもなく、神様の呼ぶ声に応答したいと以前にも増して願うからです。私はこのような、ある意味では「珍しい」働きに（今は）召されていますが、皆様も生活の現場、職場、学校、家庭などで神に召された「世の光、地の塩」のお一人おひとりとして、私の尊敬する同志です。皆様の働きが、主に在って益々豊かな実を結びますように。また、レターを毎回読んでくださっている大勢の皆様と、私の無精ゆえに長らく直接お話しが出来ずにいることを心苦しく思っております。皆様はいつも私の心の中にあり、夫婦でお祈りしています。お近くに来る際にはどうぞお気軽にお声掛けください。皆様とお会いできるのを楽しみにしつつ、働きに励んでまいります。今後も祈りに覚えていただければ幸いです。

## 活 動 報 告

### 奉仕と活動（2012年12月～2013年1月）

皆様の祈りに支えられ次の場所で働きをさせていただきました。関係した方々に感謝いたします。

月日	内容	場所
12月2日	礼拝メッセージ	練馬グレースチャペル
12月17日	クリスマス礼拝おはなし	コドモの園幼稚園
12月18～20日	震災支援活動	福島市、いわき市
1月23～25日	DNA Korea 10周年記念 Vision Conference 出席	ソウル（韓国）
1月26日	ソロク島訪問と研修	韓国南部
1月27日	オンセグ教会青年礼拝にてメッセージ	ソウル市内
継続的に	FVI 事務局の働き	練馬、立川、吉祥寺など各地

## 韓国 DNA・モデル教会の働きと、日本における全人宣教のヒント

FVI の働きは、米国アリゾナに本部を置く Disciple Nations Alliance (DNA) という働きの日本における適用です。1997 年に始まったこの働きは全世界（特に中南米、アフリカ、東南アジア）に野火のように拡がっており、韓国においても 2002 年に始まりました。

韓国の教会のサイズは日本より二回りぐらい大きく、(プロテスタントの人口比は 35 パーセントで日本の 100 倍)「小さな教会」でも 1,000 名~2,000 名ぐらいのメンバーがいます。80 年代~90 年代の韓国のキリスト教会においては「教会成長」という言葉が一種のブームで、会員数 10,000 名を超えるような「メガチャーチ」がもてはやされました。日本からも「教会成長を学ぶツアー」と称し、それらを成功のモデルとして学ぶ動きが多くありました。しかし 2000 年以降、韓国教会は行き詰りを見せ、クリスチャン人口は減り始め、特に若い世代における教会離れは顕著だと言います。韓国 DNA は、教会に行ったことのないソウル市民にアンケートを取りました。「教会が地域の必要に応答していると思う」と答えたのは全体の 15%（思わないが 85%）、地域教会について良い印象を抱いていると答えたのは 35%（悪い印象が 65%）でした。韓国社会は、自己完結的な目標を掲げて「肥大化」し、社会全体の破れを繕う努力を怠ってきた韓国の教会に対して不満の意を表している、というのが韓国 DNA の分析です。

象徴的なひとつの事例を紹介します。DNA 韓国の代表であるソン牧師の教会は建物を持っていません。ビルの 1 フロアを使って礼拝をしています。会員数は約 2,000 名と韓国では規模の小さな教会です。この教会は、同じ通り沿いに、韓国でも 5 本の指に数えられる 2 つのメガチャーチ（会員数 3 万名を超える）の間に挟まれています。仮にこれらの教会を A 教会と B 教会と呼ぶことにします。ソン牧師は 10 年前に DNA の「地域に仕える教会」のメッセージを聴き社会の必要に仕える教会の役割に目覚め 10 年間をかけて実践してきました。道路の清掃活動、貧しい方々への家庭訪問、路肩に花壇を植えるなどの活動に加え、ソウル市と提携して地域に図書館を設置し、ボランティアを動員して運営しています。この図書館は地域の人々のアンケートで「最も利用者満足度の高い図書館」に選ばれています。教会に一度も来たことのない人々や行政の人々に聴くと、A 教会と B 教会ではなく、ソン牧師の教会が最も評価が高く、良く知られ、信頼されています。地域における教会の御国の貢献はそのサイズではなく奉仕によって測られる、というひとつの実例です。大勢に流されずナチスに最後まで抵抗した神学者ディートリッヒ・ボンヘッフアーの次の言葉は私の胸に響きました。「教会は他者のために存在するときのみ、真に教会である」

今回の韓国でのビジョン・カンファレンスには、10 年前には考えられなかったような参加者がありました。極度の格差社会、自殺率の高さ（OECD 加盟国中第一位）、高い離婚率（アジアで最も高い）、などの社会のひずみが日本以上に顕在化している韓国において、教会は危機感を強めています。1 月 27 日の日曜日に私は、



オンセゲ教会の若者に聞き屋の話をする

5,000 名の教会員がいるオンセゲ教会で若者に日本での聞き屋の話をしました。韓国には「自分は母親の友達の子ども」という言葉があります。「私の友達の家の〇〇ちゃんはあるに優秀なのにあなたはそうでない」という比較が子どもを勉強させる動機づけに使われており、多くの若者は自分が無価値だという感覚にさいなまれています。私の話を聴いた大学生二名が「自分もソウルで聞き屋をする」と言いに来てくれました。文化的に近い日本と韓国は多くの問題を共有しています。私たちは「傷つき崩壊した社会に対する神の民の役割」をどのように果たしていくのか、互いに学ぶべき点は非常に多いと感じました。

## 祈りの課題

◇3月にブラジルに行きます。道中が守られ良い出会いと学びの時になるようお祈りください。

◇私たち夫婦が、聖霊の助けにより仕えるイエス様の姿に近づくことが出来るようにお祈りください。

◇FVIカタリスト、スタッフ、役員、支援者など関係する人々に調和と力強い協力関係が発揮され、「共に喜ぶ世界」実現のため、着実に小さな種を蒔き続けていくことが出来るようにお祈りください。

## 今後の予定

月日	内容	場所
2月10日	礼拝メッセージ	武蔵野福音自由教会
2月13日	活動報告会	信愛キリスト教会（豊川市）
2月18～20日	JCMN サミット参加	愛知県豊橋市
2月25～26日	FVI 役員会	万座温泉ホテル
3月3日	礼拝メッセージ	練馬グレースチャペル
3月10～25日	DNA フォーラム／現地研修	ブラジル
5月18日	隣人を愛する習慣づくりセミナー	高座教会（大和市）
6月2～16日	ガーナからし種運動訪問	ガーナ（予定）
10月下旬	WFD 岡山大会	岡山市
随時継続的に	国内啓発活動およびフォローアップ	国内各地
随時継続的に	F V I 事務局の働き	練馬など各地

## 連絡先

〒443-0013 愛知県蒲郡市大塚町伊賀久保 100-2 国際クリスチャンバプテスト教会内 「陣内俊を支える会」

Email shun@karashi.net ブログ URL : <http://ameblo.jp/shunjinnai-kingdomcome/>

## 支援のための献金方法

私の活動は、支援者の皆様の善意の支援献金によって支えられています。経済的支援にご協力くださる方は、お手数ですが以下のいずれかの方法で口座にお振込ください。ご支援を心より感謝いたします。

- ゆうちょ銀行口座番号 12110-91889141 名義：「陣内俊を支える会」
- 他行からの振込 店名（店番）：〇八九（ゼロハチキュウ）（089）預金種目：当座  
口座番号：0142825 「陣内俊を支える会」
- 郵貯振替口座番号 00830-1-142825 名義：「陣内俊を支える会」  
（同封の振込用紙がご利用いただけます。）

\*振込用紙をご入り用の方、ゆうちょ口座からの自動引き落としを利用されたい方はお知らせください。

\*2カ月に一度、プレイヤーレターに2枚（2か月分）お送りさせていただく振替口座の振込用紙（赤色・手数料当方負担）を同封させていただきますが、振込用紙は決してご支援を催促するものではありません。お振込くださるときにご利用ください。

\*Prayer Letter の購読、自動引き落としを停止されたい方、またはお届け先の住所に変更がある方は、お手数ですが、上記連絡先のいずれかにご連絡ください。